

24	嘔気嘔吐下痢などの消化器毒性に適切に対応できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
25	脱毛の予想について説明でき、対応を説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
26	口内炎にたいして適切に対応できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
27	腎毒性の危険について説明でき、その危険を回避できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
28	皮膚障害について説明し、対処できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
29	治療の効果判定ができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
30	副作用のgradingができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
31	5-FU及びその誘導体についての意義について説明し、適切に使用できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
32	5-FU/LV療法のパラエティを理解し実際に投与し副作用が管理できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
33	CPT-11の意義について説明し、適切に使用できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
34	MMCの意義について説明し、適切に使用できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
35	Oxaliplatinの意義について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
36	IMC-C225の意義について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
37	遠隔転移を有する消化器癌における化学療法の利益 (効果) と損失 (副作用、危険性) を比較して説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
38	術後補助療法における化学療法の利益 (効果) と損失 (副作用、危険性) を比較して説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
39	症例の病状、病期に沿った適切な化学療法が選択でき、処方、投与できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
40	疼痛コントロールができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
41	腹水管理ができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
42	イレウスについて説明でき、対策をたてることできる。 (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
43	腹水について説明でき、対策をたてることできる。 (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
44	消化管穿孔について説明でき、対策をたてることできる。 (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
45	消化管出血について説明でき、対策をたてることできる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
46	適切な態度、話し方でinformed consentができる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0
47	外来通院中の患者からの電話での緊急の訴えに適切に対応できる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0
48	放射線治療の適応について放射線科医に相談、依頼できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
49	手術の適応について外科医に相談、依頼できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
50	ペインクリニックに適切に相談、依頼できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
51	心療内科に適切に相談、依頼できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
52	他院に適切に紹介できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
53	在宅医療支援室に適切に紹介できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
54	ホスピスに適切に紹介できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
55	患者の要求に応じて生命予後について過不足なく説明できる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0
56	適切な時期にDNRについて家族に説明できる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0

57	求められたsecond opinionに対して適切に回答できる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
研究										
58	必要な文献を検索できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
59	臨床研究について理解でき、説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0	
60	候補としてあげた治療のうち標準治療と研究治療 (治験、市販後臨床試験、自主研究) の違いについて具体的に説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0	
61	治験分担医師として臨床研究および治験を実行できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
62	化学療法の薬理学について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0	
63	臨床研究の統計学について説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0	
64	受け持った症例をプレゼンテーションできる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
65	臨床研究テーマについて議論ができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
66	臨床研究の結果を学会発表できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
67	臨床研究の結果を論文投稿できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
68	治験支援システム、GCPについて説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0	
69	EBMに則り、消化器癌に関する文献の解釈ができる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
総計										
	69項目=207点満点					/207				
	修得率					%				
	意欲、態度、協調性5点満点									
	総合点100点満点中									

<講 評>

化学療法科（上部消化管化学療法） 評価表
 (レジデント/シニアレジデント) 名前:

	自己評価	3=よくできた 2=ある程度できた 1=少しできた 0=まったくできなかった	指導医評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎ 差 (自己評価-指導医評価)					
					自己評価	指導医評価			
レジデント 目標32項目									
一般的な項目									
1	3	2	1	0	3	2	1	0	
2	3	2	1	0	3	2	1	0	
3	3	2	1	0	3	2	1	0	
4	3	2	1	0	3	2	1	0	
5	3	2	1	0	3	2	1	0	
6	3	2	1	0	3	2	1	0	
治療に関する項目									
7	3	2	1	0	3	2	1	0	
8	3	2	1	0	3	2	1	0	
9	3	2	1	0	3	2	1	0	
10	3	2	1	0	3	2	1	0	
11	3	2	1	0	3	2	1	0	
12	3	2	1	0	3	2	1	0	
13	3	2	1	0	3	2	1	0	
14	3	2	1	0	3	2	1	0	
15	3	2	1	0	3	2	1	0	
16	3	2	1	0	3	2	1	0	
17	3	2	1	0	3	2	1	0	
18	3	2	1	0	3	2	1	0	
19	3	2	1	0	3	2	1	0	
20	3	2	1	0	3	2	1	0	
21	3	2	1	0	3	2	1	0	
22	3	2	1	0	3	2	1	0	
23	3	2	1	0	3	2	1	0	
24	3	2	1	0	3	2	1	0	

25.	転移性食道・胃癌における化学療法(+放射線療法)の利益(効果)と損失(副作用、危険性)を比較して説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
26.	必要な文献を検索できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
27.	臨床研究について理解でき、説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
28.	臨床研究のコントロールができる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
29.	胸水、腹水管理ができる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
30.	腸閉塞に対応できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
31.	食道閉塞に対応できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
32.	消化管出血に対応できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
総 計									
32項目=96点満点				/96				/96	
修得率				%				%	
意欲、態度、協調性5点満点									
総合点100点満点中									

シニアレジデント 目標26項目

1.	外来初診患者の検査計画、治療計画が立てられる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
2.	おかれた食道・胃癌の状況から適切な治療候補を複数あげ、その利点、欠点について患者に分かりやすく説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
3.	適切な化学療法(+放射線療法)が選択でき、処方投与ができる	3	2	1	0	3	2	1	0
4.	候補としてあげた治療のうち標準治療と研究治療(治療、市販後臨床試験、自主研究)の違いについて具体的に説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
5.	治療分担医師として臨床研究および治療を実行できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
6.	化学療法の薬理学について説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
7.	臨床研究のテーマについて議論できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
8.	臨床研究の統計学について説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
9.	臨床研究の結果を学会発表できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
10.	臨床研究の結果を論文投稿できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
11.	治療支援システム、GCPについて説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
12.	EBMに則り、食道・胃癌治療に関する文献の解釈ができる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
13.	適切な態度、話し方でinformed consentができる(知、技、情)	3	2	1	0	3	2	1	0
14.	外来通院中の患者からの電話での緊急の訴えに適切に対応できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
15.	放射線治療の適応について放射線科医に相談、依頼できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
16.	手術の適応について外科医に相談、依頼できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0

17	内視鏡治療の適応について相談、依頼できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
18	消化器癌の緩和治療のためのIVRを適切に選択できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
19	その他の診療科に適切に相談、依頼できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
20	他院に適切に紹介できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
21	在宅医療支援室に適切に紹介できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
22	ホスピスに適切に紹介できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
23	患者の要求に応じて生命予後について過不足なく説明できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
24	適切な時期にDNRIについて家族に説明できる(知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0
25	求められたsecond opinionに対して適切に回答できる(知、技、情)	3	2	1	0	3	2	1	0
総 計									
	25項目=75点満点				/75				/75
	修得率				%				%
	意欲、態度、協調性5点満点								
	総合点100点満点中								

<講 評>

消化器外科

消化器外科レジデントカリキュラム

GIO (general instructional objective)

レジデント達成項目

標準的な消化器癌手術の術式を理解し、患者の術前・術後管理を実施できる。

シニアレジデント達成項目

個々の症例に最適な手術術式を選択し、リスクや侵襲に応じた臨機応変の術前・術後管理を実施できる。

SBO (specific behavioral objectives)

シニアレジデント達成項目を下線で示した。

【消化器外科総論】

1. 消化器外科において看護師・上級医と一体になったチーム医療を実践できる (知・技)。
2. 消化器癌患者の現病歴, 既往歴, 家族歴を適切に聴取できる (知・技)。
3. 消化器癌患者の理学的所見をとれる (知・技)。
4. 消化器癌患者の全身状態の把握に必要な検査を依頼できる (知・技)。
5. 消化器癌患者の術前のリスクを評価できる (知)。
6. 消化器癌患者の術前のインフォームドコンセントの内容を適切にまとめることができる (知・技)。
6-2) 指導医の監視下で消化器癌患者の術前のインフォームドコンセントを行える (知・技)。
7. 消化器癌患者の術後管理に必要な検査を依頼できる (知・技)。
8. 消化器癌患者の術後の輸液管理ができる (知・技)。
 - 8-1) 中心静脈栄養のメニューを作成できる (知・技)。
 - 8-2) 糖尿病患者の輸液管理ができる (知・技)。
 - 8-3) 肝硬変合併患者の輸液・輸血管理ができる (知・技)。
9. 経腸栄養のメニューを作成し, 実施できる (知・技)。
10. 輸血の適応を判断できる (知・技)。

- 1 1. 術後の予防的抗菌薬を選択できる (知・技).
- 1 2. 術後の血液検査・X線検査を依頼できる (知・技)
- 1 3. 動脈血採血を行い、そのデータを解釈できる (知・技).
 - 1 3-2) 動脈血採血の結果に基づいて呼吸管理を計画・変更できる (知・技).
- 1 4. 中心静脈カテーテルを挿入でき、挿入に伴う偶発症に対処できる (知・技).
 - 1 4-2) 下級医の中心静脈カテーテル挿入を指導できる (知・技).
- 1 5. 人工呼吸器管理ができる (知・技).
- 1 6. 緊急の気管内挿管の適応を判断し実施できる (知・技).
- 1 7. 気管切開に上級医の指導のもと術者として対応できる (知・技).
- 1 8. 気管切開の術者として対応できる (知・技).
- 1 9. 血液透析・浄化療法の必要性を説明できる (知).
 - 1 9-2) 血液透析・浄化療法中の呼吸循環管理ができる (知).
- 2 0. 胸部単純X線写真を読影できる (知).
- 2 1. 腹部単純X線写真を読影できる (知).
- 2 2. ドレーンの状態を把握し管理できる (知・技).
 - 2 2-2) 低圧間歇持続吸引を管理できる (知・技).
- 2 3. 経口摂取の開始・中止を依頼できる (知).
 - 2 3-2) 経口摂取の開始・中止を判断し指示できる (知).
- 2 4. 腹壁・皮膚の縫合ができる (知・技).
 - 2 4-2) 下級医の腹壁・皮膚の縫合を指導できる (知・技).
- 2 5. 安全に抜糸・ドレーン抜去ができる (知・技).
 - 2 5-2) 下級医の抜糸・ドレーン抜去を指導できる (知・技).
- 2 6. 緊急のCT・超音波検査の必要性を判断できる (知).
- 2 7. 緊急のCT・超音波検査の所見を説明できる (知).
 - 2 7-2) 緊急のCT・超音波検査を依頼し、所見を読影できる (知).
- 2 8. 腹部症状から緊急手術の必要性を判断できる (知・技).
- 2 9. 上級医への連絡が必要な状態を判断し、適切に連絡できる (知).
- 3 0. 緊急のCT・超音波検査を依頼し、所見を読影できる (知).
- 3 1. 消化器癌患者の術後の血液検査・X線検査の成績から術後経過を評価できる (知・技)

- 32. 退院サマリーを適切に記載できる (知).
- 33. 患者からの直接の質問に対して適切に対応できる (知・技).
- 34. カンファランスにおいて画像や病理組織を適切に提示できる (知・技).
- 35. カンファランスにおいて画像や病理組織に関する適切な質問ができる (知・技).
- 36. インターネット・図書室を使って文献検索ができる (知・技).
- 37. 文献検索の結果をまとめカンファランスで発表できる (知・技).

【食道外科】

食道癌の基礎知識

1. 食道の解剖・区分・機能について説明できる (知).
2. 食道癌の肉眼分類について説明出来る (知).
3. 食道癌の発育様式について説明できる (知).
4. 食道癌の進行度分類を説明できる (知).
5. 食道癌の無治療での自然経過を説明できる (知).

検査と治療方針決定

1. 食道透視・食道胃内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技).
2. 食道透視検査の手順を説明できる (知).
3. 胃透視検査の所見を説明できる (知).
4. 食道内視鏡検査の所見を説明できる (知).
5. 内視鏡的食道粘膜切除術の適応を説明できる (知).
6. 食道の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知).
7. 食道癌の CT 所見を説明できる (知).
8. 食道癌深達度 M1-3 の診断基準を説明出来る (知).
9. 食道癌 SM の診断基準を説明出来る (知).
10. 食道 sm 癌の手術適応・内容について説明できる (知).
11. 進行食道癌の診断基準を説明出来る (知).
12. 進行食道癌の手術適応・内容について説明できる (知).
13. 術前の検査所見に基づいて食道癌の進行度を評価できる (知).
14. 食道癌術前化学療法の適応とその概略を説明できる (知).
15. 術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる (知・技).

術前術後管理

1. 食道癌患者の術前全身評価に必要な検査項目を説明できる (知).
2. 食道癌手術の前処置を依頼できる (知・技).
3. 反回神経の走行とその合併症について説明できる (知).
4. 術後合併症とその処置を説明できる (知).
- 4—2) 術後合併症に対する応急処置ができる (知・技).

5. 緊急食道癌手術の前処置を立案できる (知・技).

手術

1. 占居部位別リンパ節群分類を説明できる (知).
2. 食道癌切除後の再建臓器・再建経路について説明できる (知).
3. 第2助手として適切に介助ができる (知・技).
- 3—2) 第1助手として適切に介助ができる (知・技).
4. 指導医のもとで術者として開胸術、開腹噴門部切除、胃管作成術ができる (知・技).
5. 術中に切除標本を適切に開くことができる (知・技).
6. 切除標本で病変の範囲を正確に指摘し得る (知・技).
7. 切除断端の病理迅速診断を適切に提出できる (知・技).
8. 切除標本の固定を適切に行える (知・技).
9. 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる (知・技).
10. 切除標本のスケッチを正確にできる (知・技).
11. 胸腔鏡補助下食道切除術について説明できる (知).

術後フォローアップ

1. 食道癌手術の後遺症を説明できる (知).
2. 食道癌再発例の治療法の概要を説明できる (知).
3. フォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる (知・技)
4. 食道癌術後のフォローアッププログラムを説明できる (知).

その他

1. 食道粘膜下腫瘍の診断・治療法について説明できる (知).

【胃外科】

胃癌の基礎知識

1. 胃の解剖・区分・機能について説明できる (知).
2. 早期胃癌の肉眼分類について説明出来る (知).
3. 胃癌の遺伝子異常について説明できる (知).
4. 胃癌の発育様式について説明できる (知).
5. 胃癌の進行度分類を説明できる (知).
6. 占居部位別リンパ節群分類を説明できる (知).
7. 胃癌の無治療での自然経過を説明できる (知).

検査と治療方針決定

1. 胃透視・胃内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技).
2. 胃透視検査の手順を説明できる (知).
3. 胃透視検査の所見を説明できる (知).
4. 胃内視鏡検査の所見を説明できる (知).
5. 内視鏡的胃粘膜切除術の適応を説明できる (知).
6. 胃癌の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知).
7. 早期胃癌 M・SM の診断基準を説明出来る (知).
8. 胃 sm 癌の手術適応について説明できる (知).
9. 胃癌 MP の診断基準を説明出来る (知).
10. 進行胃癌の手術適応について説明できる (知).
11. 胃癌の CT 所見を説明できる (知).
12. 術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる (知・技).
13. 術前の検査所見に基づいて胃癌の進行度を評価できる (知).

術前術後管理

1. 胃癌患者の術前全身評価に必要な検査項目を説明できる (知).
2. 緊急胃癌手術の前処置を立案できる (知・技).
3. 胃癌手術の術後合併症とその処置を説明できる (知).
- 3-2) 胃癌手術の術後合併症に対する応急処置ができる (知・技).

手術

1. 胃癌術前化学療法の適応とその概略を説明できる (知).
2. 早期胃癌の手術術式について説明できる (知).
3. 進行胃癌の手術術式を説明できる (知).
4. 腹腔鏡補助下胃切除術について説明できる (知).
5. 術中に第2助手として適切に介助ができる (知・技).
6. 指導医の指導のもとで胃切除術の第1助手ができる (知・技).
- 6—2) 術中に第1助手として胃癌手術の介助が適切にできる (知・技).
7. 指導医の指導のもとで術者として幽門側胃切除術ができる (知・技).
8. 術中に切除標本を適切に開くことができる (知・技).
9. 病変の範囲を正確に指摘し得る (知・技).
10. 切除断端の病理迅速診断を適切に提出できる (知・技).
11. 切除標本からリンパ節を病理迅速診断に適切に提出できる (知・技).
12. 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる (知・技).
13. 切除標本のスケッチを正確にできる (知・技).
14. 切除標本の固定を適切に行える (知・技).

術後フォローアップ

1. 胃癌手術の後遺症を説明できる (知).
2. 胃癌の転移・再発の形式を説明できる (知).
3. 胃癌術後のフォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる (知・技).
4. 胃癌再発例の治療法の概要を説明できる (知).
5. 胃癌術後のフォローアッププログラムを説明できる (知).

その他

1. ピロリ菌と胃癌との関連を説明できる (知).
2. ピロリ菌の除菌の方法を説明できる (知).
3. 胃十二指腸潰瘍の治療法について説明できる (知).
4. GERD (胃食道逆流症候群) について説明できる (知).
5. 胃悪性リンパ腫の治療体系について説明できる (知).
6. 胃粘膜下腫瘍の診断・治療法について説明できる (知).

【大腸・下部消化管外科】

大腸癌の基礎知識

1. 大腸の解剖・区分・機能について説明できる (知).
2. 大腸の血流について説明できる (知).
3. 大腸癌の所属リンパ節について説明できる (知・技).
4. 大腸癌の発生過程を説明できる (知).
5. 大腸癌にみられる遺伝子異常を説明できる (知).
6. 家族性大腸癌 (大腸腺腫症・HNPCC) について説明できる (知).
7. 早期大腸癌の増殖形式 (PG と NPG) について説明できる (知).
8. 大腸癌の無治療での自然経過を説明できる (知).
9. 大腸癌の進行度分類を説明できる (知).
10. 大腸早期癌の手術適応を説明できる (知).

検査と治療方針決定

1. 注腸造影・大腸内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技).
2. 注腸造影検査の所見を説明できる (知).
2-2) 注腸造影検査の所見を読影できる (知).
3. 大腸内視鏡検査の所見を説明できる (知).
3-2) 大腸内視鏡検査の所見を読影できる (知).
4. 大腸 sm 癌の内視鏡所見の特徴を説明できる (知).
5. 大腸癌の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知).
6. 大腸 sm 癌の手術適応を説明できる (知).
7. 腹腔鏡補助下大腸切除術について説明できる (知).
8. 直腸癌術前の放射線化学療法の適応とその概略を説明できる (知).
9. 直腸指診を行い、その所見を説明できる (知・技).
10. 大腸癌術前の CT 所見を説明できる (知).
10-2) 大腸癌術前の CT 所見を読影できる (知).
11. 大腸癌術前の MRI 所見を説明できる (知).
11-2) 大腸癌術前の MRI 所見を読影できる (知).
12. 術前の検査所見に基づいて大腸癌の進行度を評価できる (知).
13. 術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる (知・技).

術前術後管理

1. 予定大腸手術の前処置を依頼できる (知・技).
- 1—2) 緊急大腸手術の前処置を立案できる (知・技).
2. 大腸癌手術の術後合併症とその処置を説明できる (知).
3. 大腸癌手術の術後合併症に対する応急処置ができる (知・技).

手術

1. 手術患者の碎石位をとれる (知・技).
2. 指導医のもとで人工肛門造設術の術者ができる (知・技).
3. 第2助手として肝彎曲部・脾彎曲部・小骨盤腔の視野を維持できる (知・技).
4. 結腸切除術, 低位前方切除術, 人工肛門閉鎖術の第1助手ができる (知・技).
- 4—2) 指導医の指導のもとで結腸切除術, 低位前方切除術, 人工肛門閉鎖術の術者ができる (知・技).
5. 超低位前方切除術, 直腸切断術, 大腸全摘術の第1助手ができる (知・技).
6. 低位前方切除術, S状結腸切除術の際に自動吻合器を操作できる (知・技).
- 6—2) 超低位前方切除術, functional end to end anastomosis の際に自動吻合器を操作できる (知・技).
7. 直腸癌における術中洗浄・リークテストを実施できる (知・技).
8. 術中に切除標本を適切に開くことができる (知・技).
9. 比較的容易な部位で自動吻合器を操作できる (知・技).
10. 断端の病理迅速診断のための材料を採取できる (知・技).
11. 切除標本からリンパ節を摘出し病理検査に提出できる (知・技).
- 11—2) 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる (知・技).
12. 切除標本のスケッチを正確にできる (知・技).
13. 切除標本の固定を適切に行える (知・技).
14. 直腸癌の自律神経温存術・肛門括約筋温存手術を説明できる (知).

術後フォローアップ

1. 大腸癌手術の後遺症を説明できる (知).
2. 大腸癌の転移・再発の形式を説明できる (知).
3. 大腸癌術後のフォローアッププログラムを説明できる (知).

その他

1. 大腸憩室症について説明し、診断できる (知・技).
2. 潰瘍性大腸炎・クローン病の病態と手術術式について説明できる (知・技).
3. 大腸腺腫症の診断と治療について説明できる (知・技).
4. 大腸癌術後のフォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる (知・技).

【肝胆膵外科】

肝腫瘍・胆道癌・膵臓癌の基礎知識

- 1 1. 肝区域 (Couinaud) を説明できる (知).
- 1 2. 胆道・膵の外科的正常解剖を説明できる (知).
- 1 3. 転移性肝癌の画像診断上の特徴を説明できる (知).
- 1 4. 転移性肝癌の切除方法について説明できる (知).
- 1 5. 肝細胞癌の画像診断上の特徴を説明できる (知).
- 1 6. 肝細胞癌の非外科的治療方法を説明できる (知).
- 1 7. 肝細胞癌の外科的治療方法を説明できる (知).
- 1 8. 肝内胆管癌の画像診断上の特徴を説明できる (知).
- 1 9. 肝内胆管癌の切除方法について説明できる (知).
- 2 0. 膵癌と他の膵疾患の鑑別診断を説明できる (知).
- 2 1. IPMT と MCT の本態および画像上の特徴を説明できる (知).
- 2 2. IPMT と MCT の切除方法について説明できる (知).
- 2 3. 胆管癌の切除方法について説明できる (知).
- 2 4. 胆のう癌の画像診断上の特徴を説明できる (知).
- 2 5. 胆のう癌の切除方法について説明できる (知).

検査と治療方針決定

1. 腹部超音波検査所見を説明できる (知).
2. 腹部 CT 所見を説明できる (知).
2—2) 腹部 CT 所見を読影できる (知・技).
3. 部血管造影検査所見を説明できる (知).
3—2) 腹部血管造影検査所見を読影できる (知・技).
4. 腹部 MRI 検査所見を説明できる (知).
5. ERCP 所見を説明できる (知).
6. PTCD 所見を説明できる (知).
6—2) 指導医のもとで閉塞性黄疸症例の PTCD を施行できる (知・技).
7. 術前検査所見に基づく治療方針を説明できる (知・技).
8. 膵癌におけるリンパ節郭清の意義を説明できる (知).
9. 膵癌の非切除因子を説明できる (知・技).

10. 膵癌の予後を説明できる (知・技).

術前術後管理

1. 肝・胆・膵癌患者の術前検査を説明できる (知).
 - 1—2) 肝・胆・膵癌患者の術前検査を立案できる (知・技).
2. 門脈塞栓術の適応と方法を説明できる (知).
3. PTCD の管理とドレナージ胆汁に応じた補液ができる (知・技).
4. 肝硬変患者術後の腹水や体重の変化に応じて利尿剤, FFP を投与できる (知・技).
5. 術後出血, 胆汁漏, 右胸水を診断できる (知).
6. 膵液漏を診断できる (知).
7. 肝不全兆候を早期診断できる (知).

手術

1. 肝・胆道・膵領域の外科的正常解剖と変異を術中に把握できる (知).
2. 個々の症例に応じた適切な皮切, 開腹, 開胸法を選択できる (知・技).
3. 術中超音波で肝内脈管と腫瘍の関係を立体的に把握できる (知).
4. カラードップラーエコーで動脈・門脈・肝静脈を区別できる (知・技).
5. 術野を絶え間なく吸引し, 術者の視野を確保できる (技).
6. 長時間手術でも集中力を途切れさせることなく, チームワークを保つことができる (技).
7. 指導医のもとで胆嚢摘出術 (開腹) の術者を務めることができる (知・技).
8. 肝部分切除術の第1助手や, 指導医のもとでの術者ができる (知・技).
9. 区域以上の系統的肝切除術の第1助手ができる (知・技).
10. 胆汁リークテストの方法を理解し施行できる (知・技).
11. 膵頭十二指腸切除術の第1助手ができる (知・技).
12. 膵体尾部切除の第1助手や, 郭清を伴わない切除の指導医のもとでの術者ができる (知・技).
13. 膵頭部縮小手術の第1助手ができる (知・技).
14. Appleby 手術の第1助手ができる (知・技).
15. 胆管癌に対する拡大肝葉切除の第1助手ができる (知・技).
16. 肝外胆管切除の第1助手ができる (知・技).

17. 肝切除兼膵頭十二指腸切除の第1助手ができる (知・技).

18. 胆道癌・膵癌に対するリンパ節郭清の第1助手ができる (知・技).

消化器外科 評価表

(レジデント/シニアレジデント) 名前:

自己評価	3=よくできた、 2=ある程度できるようになった 1=少しできた 0=まったくできなかつた	自己評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎
【消化器外科総論】			
1	3 2 1 0	3 2 1 0	1. 消化器外科において看護師・上級医と一体になったチーム医療を実践できる (知・技) .
2	3 2 1 0	3 2 1 0	2. 消化器癌患者の現病歴、既往歴、家族歴を適切に聴取できる (知・技) .
3	3 2 1 0	3 2 1 0	3. 消化器癌患者の理学的所見をとれる (知・技) .
4	3 2 1 0	3 2 1 0	4. 消化器癌患者の全身状態の把握に必要な検査を依頼できる (知・技) .
5	3 2 1 0	3 2 1 0	5. 消化器癌患者の術前のリスクを評価できる (知) .
6	3 2 1 0	3 2 1 0	6. 消化器癌患者の術前のインフォームドコンセントの内容を適切にまとめることができる (知・技) .
7	3 2 1 0	3 2 1 0	6-2) 指導医の監視下で消化器癌患者の術前のインフォームドコンセントを行える (知・技) .
8	3 2 1 0	3 2 1 0	7. 消化器癌患者の術後管理に必要な検査を依頼できる (知・技) .
9	3 2 1 0	3 2 1 0	8. 消化器癌患者の術後の輸液管理ができる (知・技) .
10	3 2 1 0	3 2 1 0	8-1) 中心静脈栄養のメニューを作成できる (知・技) .
11	3 2 1 0	3 2 1 0	8-2) 糖尿病患者の輸液管理ができる (知・技) .
12	3 2 1 0	3 2 1 0	8-3) 肝硬変合併患者の輸液・輸血管理ができる (知・技) .
13	3 2 1 0	3 2 1 0	9. 経腸栄養のメニューを作成し、実施できる (知・技) .
14	3 2 1 0	3 2 1 0	10. 輸血の適応を判断できる (知・技) .
15	3 2 1 0	3 2 1 0	11. 術後の予防的抗菌薬を選択できる (知・技) .
16	3 2 1 0	3 2 1 0	12. 術後の血液検査・X線検査を依頼できる (知・技) .
17	3 2 1 0	3 2 1 0	13. 動脈血採血を行い、そのデータを解釈できる (知・技) .
18	3 2 1 0	3 2 1 0	13-2) 動脈血採血の結果に基づいて呼吸管理を計画・変更できる (知・技) .
19	3 2 1 0	3 2 1 0	14. 中心静脈カテーテルを挿入でき、挿入に伴う偶発症に対処できる (知・技) .
20	3 2 1 0	3 2 1 0	14-2) 下級医の中心静脈カテーテル挿入を指導できる (知・技) .
21	3 2 1 0	3 2 1 0	15. 人工呼吸器管理ができる (知・技) .
22	3 2 1 0	3 2 1 0	16. 緊急の気管内挿入の適応を判断し実施できる (知・技) .
23	3 2 1 0	3 2 1 0	17. 気管切開に上級医の指導のもと術者として対応できる (知・技) .
24	3 2 1 0	3 2 1 0	18. 気管切開の術者として対応できる (知・技) .
25	3 2 1 0	3 2 1 0	19. 血液透析・浄化療法の必要性を説明できる (知) .
26	3 2 1 0	3 2 1 0	19-2) 血液透析・浄化療法中の呼吸循環管理ができる (知) .
27	3 2 1 0	3 2 1 0	20. 胸部単純X線写真を読影できる (知) .
28	3 2 1 0	3 2 1 0	21. 腹部単純X線写真を読影できる (知) .
29	3 2 1 0	3 2 1 0	22. ドレーンの状態を把握し管理できる (知・技) .